

2026年度

高知大学大学院 総合人間自然科学研究科
農林海洋科学専攻（修士課程）

学生募集要項

〔 自 己 推 薦 特 別 選 抜 〕

※一般選抜、社会人特別選抜、私費外国人留学生特別選抜については、
6月中旬に本学HPの受験生サイトにて公表予定の学生募集要項より
ご確認ください。

2025年6月16日改訂版

P.13,15 総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻（コース・領域）の概要に担当教員2名を追記しました。
（変更箇所は赤字で表記）



高知大学受験生サイト (<https://nyusi.kochi-u.jp/daigakuin>)

高 知 大 学

目 次

[アドミッションポリシー（入学者受入方針）]	1
[自己推薦特別選抜]	
1 募集人員	2
2 出願資格	2
3 出願資格についての注意	2
4 出願手続	2
5 選抜方法	4
[合格者発表・入学手続等]	
1 合格者発表	6
2 入学手続等	6
[その他]	
1 障害等のある者の出願	8
2 奨学金	10
3 個人情報	10
4 問い合わせ	10
総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻（コース・領域）の概要	11
修了要件及び学位	16
社会人に対する授業時間等の特例	16
長期履修学生制度について	16
教育職員免許状	16
教員免許取得を目的とする科目等履修生に対する特別措置について	17
2025年度開講科目一覧(参考)	19
高知大学物部キャンパス交通案内	24
物部キャンパス案内図	25

[アドミッションポリシー（入学者受入方針）]

高知大学大学院総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻が入学を期待する人

本学修士課程農林海洋科学専攻では、その設置理念・目的に基づき、以下のような人を求めます。

【知識・理解】

- ・農林資源環境科学、農芸化学又は海洋資源科学について、大学卒業程度の専門的知識と実践的技術を有している。

【思考・判断】

- ・人間社会・地域社会の持続的発展のために必要となる、食糧、資源、環境に関する諸問題について考察することができる。入学までに修得した農学又は海洋科学の専門的知識を踏まえ、論理的な考察を行う素養がある。

【関心・意欲】

- ・農学又は海洋科学の諸分野に対する幅広い関心や農学と海洋科学の連携への興味を持ち、研究に取り組む意欲を有している。

【態度】

- ・誠実で責任ある研究活動を行い、修得した専門知識・技術を社会のために活かそうとする態度を有する。

【技能・表現】

- ・研究成果を広く国内外に発信していくうえで必要となる表現力、理解力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション・ディベート能力の素養を身に付けている。

【入学者選抜方法と評価する能力】

自己推薦特別選抜

選抜方法	評価する能力				
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
口述試験	◎	○	◎	○	○
自己推薦書			◎		○
学業成績	◎				
英語 TOEIC	○				

※【入学者選抜方法と評価する能力】の表の◎、○は、当該能力の重要度またはそれを評価する比重・目安を示します。（◎は必須・最重要点項目、○は必要・重点項目）なお、◎、○は配点の内訳とは直接関係はありません。

[自 己 推 薦 特 別 選 抜]

1 募集人員

コース	募集人員	備 考
農林資源環境科学 農芸化学 海洋資源科学	20 人	自己推薦特別選抜の合格者が 20 人に満たない場合は、欠員を一般選抜の募集人員に加えます。

※出願に際しては、あらかじめ志望する教育研究分野の教員に照会のうえ、出願してください。

2 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者又は 2026 年 3 月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は 2026 年 3 月までに授与される見込みの者

3 出願資格についての注意

- (1) 日本語による日常会話に支障のない者であることが必要です。
- (2) 出願される方は必ず、11～15 ページの総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻（コース・領域）の概要（2025 年 6 月現在）をご覧のうえ、指導を受けようとする担当教員を確認してください。

4 出願手続

(1) 出願期間

2025年6月23日（月）から 2025年6月25日（水） 8時30分～17時《必着》

出願期間最終日の17時必着としますので、郵送（特定記録・速達郵便）する場合は、郵便事情を十分考慮の上、余裕をもって発送してください。なお、出願期間前に到着したものは、受付初日に処理します。

直接持参される場合も、上記期間に受け付けます。

(2) 出願方法

次の (3) に掲げる出願書類等を一括とりそろえ、角形2号の封筒に入れ、「提出書類郵送あて名書き用紙」に必要事項を記入のうえ、これを封筒に全面のりづけして特定記録・速達郵便で、所定の期日までに提出してください。なお、直接持参される場合も、必ず上記のように封筒を作成してください。

出願書類の様式・提出書類郵送あて名書き用紙は受験生サイトからダウンロードできます。

高知大学受験生サイト (<https://nyusi.kochi-u.jp/daigakuin/admissions>)

<出願書類提出先> 〒783-8502 南国市物部乙200

高知大学総務部物部総務課学務室（大学院入試担当）（TEL：088-864-5217）

(3) 出願書類等

①	入学願書	受験生サイトよりダウンロードして作成。
②	受験票、写真票、 入学検定料払込 証明書、座席票	受験生サイトよりダウンロードして作成。 上半身脱帽、出願前3か月以内の撮影写真（縦4cm×横3cm）を所定の箇所に貼付すること。
③	住所票	受験生サイトよりダウンロードして作成。
④	最終出身学校卒業 （修了）（見込み） 証明書	「出願資格（2）」の該当者は提出不要。
⑤	GPA（注）が 記載された 学業成績証明書	出身大学又は最終出身学校の学長（学部長）等が作成し、厳封したもの。 （注）履修した卒業要件科目（不合格科目も含む）を対象に算出したもの。 ※出身大学で本専攻指定の証明書の発行ができない場合は、出願前に物部総務課学務室（大学院入試担当）に連絡してください。 なお、本学学部の新入生は提出不要。
⑥	入学志望調書	受験生サイトよりダウンロードして、志望動機等について本人が作成したもの。
⑦	自己推薦書	受験生サイトよりダウンロードして作成。
⑧	入学検定料 30,000円	郵便局・ゆうちょ銀行で郵便局所定の用紙を使用し、以下の口座に払込み、②の「入学検定料払込証明書」に「振替払込請求書兼受領証」（郵便局・ゆうちょ銀行で受付局日附印を押印してもらったもの）のコピーを貼付して提出すること。 （納入した入学検定料は、出願受付後においてはいかなる理由があっても返還しません。） 受取人口座名義： 高知大学 指定金融機関： ゆうちょ銀行 振替口座 口座記号番号： 01610-5-129391 ※通信欄に出願専攻名（農林海洋科学専攻）と出願者氏名を記載してください。 ※払込みに要する手数料は、志願者のご負担となります。 ※振替払込請求書兼受領証の原本は本人控えとして保管ください。
⑨	受験票送付用封筒	表に住所・氏名を記入し、410円分の切手を貼付した長形3号（23.5cm×12cm）の封筒を同封すること。（出願受付後、受験票の送付に使用します。）

⑩	TOEIC 公開テスト の 公式認定証 (Official Score Certificate) あるいは個人宛 TOEIC IPテスト スコアレポート	2022年4月以降に受験したテストに限る。 公式認定証のコピーあるいはTOEIC IPテストスコアレポートのコピーを提出すること。(TOEIC公開テストを受験した者は、試験日から19日後にTOEIC申込サイトで確認できるデジタル公式認定証でも可。) ※公式認定証のコピーあるいはTOEIC IPテストスコアレポートのコピーが出願期間に間に合わない場合は、受験票のコピーを出願時に提出し、試験期日の2営業日前の17時までに公式認定証のコピーあるいはTOEIC IPテストスコアレポートのコピーを提出すること。出願前に物部総務課学務室(大学院入試担当)(TEL: 088-864-5217)と日程の確認を行ってください。
---	---	--

<その他の必要書類>

1. 日本に在住する外国人の者は、市町村長の発行する住民票の写し(国籍、在留資格、期間が記載されたもの)を上記書類に加え提出してください。
2. 「出願資格(2)」による学士の学位を授与された者は、「学位記」の写し又は学位授与証明書を提出してください。なお、見込みの者は、当該「修了見込証明書」又は「学士の学位授与申請(予定)証明書」(様式随意)を提出してください。

(4) 出願書類提出上の注意

- ① 出願書類のうち一つでも不備のある場合には、出願書類を受け付けません。
- ② 出願書類の受付後は、書類の返還及び記載事項の変更を認めません。
- ③ 提出書類のうち外国語によるものは、日本語の訳文を添付してください。
- ④ 入学後においても、提出書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合には、入学を取り消します。
- ⑤ 受け付けた検定料及び出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。

5 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査等(口述試験(プレゼンテーションに対する審査を含む))、書類審査(自己推薦書)、学業成績、英語 TOEIC及び出願書類の結果を総合して行います。

(1) 試験日程

期 日	2025年7月5日(土)			
時 間	9時00分 ~ (1人20分程度)			
試験科目 (配点)	口述試験 (プレゼンテーションに 対する審査を含む) (150)	書類審査 自己推薦書 (50)	学業成績 (100)	英語 TOEIC (100)

(2) 受験上の注意事項

- ① 当日は、8時45分までに所定の口述試験控室へ集合してください。
- ② 口述試験は定められた集合時間に遅れると受験することができません。
- ③ 試験期間中は、受験票を必ず携帯してください。
- ④ 机の上に置けるものは「受験票」、「筆記用具（鉛筆・消しゴム）」、「時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマーや学習タイマー・大型のものは不可。）」、「その他、個別に許可されたもの」のみです。定められた集合時間後において、試験室及び試験控室ではこれらのもの以外は机に出してはいけません。
- ⑤ 携帯電話等の音の出る電子機器類は、電源を切ってかばん等に入れ、所持しないでください。
- ⑥ プレゼンテーションで用いるパソコンは、各自で持参してください。液晶プロジェクターとパソコンはVGA端子、HDMI端子、及びType-C端子で接続できます。その他の端子で接続する必要がある場合は、各自で変換アダプターを持参してください。その他、プロジェクターとの接続等に関して不明な点は、物部総務課学務室（大学院入試担当）に問い合わせてください。また予備として、別途発表データをUSBに入れ、併せて持参してください。
- ⑦ プレゼンテーションに関しては、別途指示がある場合があります。詳しくは希望する分野の教員に問い合わせてください。
- ⑧ 追試験は実施しませんので、天候等により交通機関に影響が予想される場合は早めに移動してください。
- ⑨ 監督者等の指示に従わないとき、又は不正行為をしたとき、若しくはしようとしたときは、失格とします。不正行為を行った場合は警察に被害届を出す場合があります。

(3) 口述試験

志望する教育研究分野及び入学志望調書等に行います。液晶プロジェクター、パソコンを使用し、入学後の研究の計画や抱負等について、10分間のプレゼンテーションを行ってください。

その後、面接者による10分間の質疑応答を行います。

(4) 試験場

高知大学物部キャンパス（南国市物部乙200）

集合場所・注意事項については、当日、1号館正面玄関付近に設置する「会場案内図」で確認してください。（25ページの物部キャンパス案内図で設置場所を確認してください。）

[合格者発表・入学手続等]

1 合格者発表

(1) 自己推薦特別選抜については2025年7月15日(火)に、合格者本人あて(住所票に記載された場所)に合格通知書を特定封筒郵便(レターパックライト)で発送します。

(2) ホームページ上でも合格者発表を行いますが、情報提供サービスの一環として行うものです。必ず合格通知書をもって確認してください。

高知大学受験生サイト (<https://nyusi.kochi-u.jp/>)

(3) 電話等による問い合わせには一切応じません。

2 入学手続等

(1) 手続期間

【自己推薦特別選抜合格者】

2025年8月20日(水)から8月22日(金) 8時30分～17時《必着》

自己推薦特別選抜合格者については合格通知書と同封して(2)入学手続書類の①宣誓書、⑧入学料払込証明書、及び⑨-1、⑨-2の各誓約書を送付しますので、上記の手続期間中に提出してください。

その他の入学手続書類については、1月下旬から2月上旬の間に『入学者の手引』と同封して別途送付しますので、『入学者の手引』に記載の手続期間中に提出してください。

手続場所は物部総務課学務室(大学院入試担当)です。

＜出願書類提出先＞ 〒783-8502 南国市物部乙200

高知大学総務部物部総務課学務室(大学院入試担当) (TEL: 088-864-5217)

持参の場合も、上記期間に受け付けます。

※合格者で、上記の手続期間内に入学手続を完了されない者は、入学辞退者として取り扱います。

(2) 入学手続書類

- ① 宣誓書(本専攻所定の様式)
- ② 学資負担者届(本専攻所定の様式)
- ③ 住民票記載事項証明書(本専攻所定の様式)
- ④ 身上調書(本専攻所定の様式、縦4cm×横3cmの写真を貼付)
- ⑤ 学生証交付願(本専攻所定の様式、縦4cm×横3cmの写真を貼付)
- ⑥ 同意確認書(本専攻所定の様式)
- ⑦ 最終学校の卒業(修了)証明書(高知大学卒業生は不要)又は在学期間証明書(既に提出の場合は不要)
- ⑧ 入学料払込証明書(本専攻指定の様式)
- ⑨-1 安全保障輸出管理に関する誓約書(本専攻指定の様式)
- ⑨-2 外国為替及び外国貿易法第25条第1条第2項の遵守のための特定類型該当性に関する誓約書(本専攻指定の様式)

(3) 入学料及び授業料

- ① 入学料 282,000 円
- ② 授業料 第1学期分 267,900 円（年額 535,800 円）

○ 注意事項

- 1) 入学料は、入学手続き時に納付してください。

授業料は、第1学期分は5月中、第2学期分は11月中に本学指定の金融機関からの口座引き落としとなります。

- 2) **入学料の免除又は徴収猶予**を希望する者は、入学手続きに先立って申し出てください。なお、授業料についても免除制度及び徴収猶予制度があります。**入学料・授業料の納付後は、免除等申請ができません。**

＜問い合わせ先＞高知大学総務部物部総務課学務室（免除担当）（TEL：088-864-5217）

- 3) 納入した入学料は返還しません。
- 4) 入学料免除及び徴収猶予の申請者が、本学の入学手続きを完了した後に入学を辞退する場合は、ただちに入学料を納付しなければなりません。
- 5) 入学料及び授業料について改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料が適用されます。

[そ の 他]

1 障害等のある者の出願

障害等のある者の入学志願者で、受験上の配慮及び修学上の支援を必要とする場合は、出願に先立ち、以下の方法により本学と事前相談を行うことが可能です。なお、相談内容によっては、対応に時間を要する場合や対応できない場合もありますので、出願前のできるだけ早い時期に相談してください。

修学支援の方法や内容は、障害の種類や修学環境等によって異なってきますが、少なくともどのような支援が必要になるかを把握しておくことで、入学後の対応をスムーズに進めることができます。本学では、障害学生の修学支援対応の準備時間はできるだけ多くあった方がよいとの観点から、出願前のできるだけ早い時期に、修学上の支援についてもご相談いただくことを推奨しています。

(1) 事前相談の時期

【自己推薦特別選抜】 2025 年 05 月 27 日（火）まで

※上記期限以降に理由が生じた場合や、受験後に修学上の支援について相談したいなどの場合には期限以降でもご相談ください。

(2) 事前相談の方法

受験上の配慮・修学上の支援に関する事前相談の手順は、以下の①～⑤に従って進めてください。

※日常生活において、補聴器、松葉杖、車椅子等を使用している場合についても、試験における配慮の必要上、必ず事前相談してください。

① 電話もしくはメールによる相談

具体的に本学の受験を考える前の段階でも、受験上の配慮については (3) ①の連絡先で、修学上の支援については (3) ②に記載のインクルージョン支援推進室で、随時、電話・メール等による相談を受け付けています。

② 「受験上の配慮・修学上の支援に関する申請書」等の必要書類について

障害等のある入学志願者で、受験上の配慮を必要とする場合や、入学後、修学上の支援を希望する場合は、①による相談の上、本学で対応可能な措置や申請にあたり、以下の書類を準備してください。

- ・本学所定の「受験上の配慮・修学上の支援に関する申請書」
- ・医師の診断書（可能な限り発行後 3 か月以内のもの）原本
- ・身体障害者手帳の写し（取得者のみ）

上記必要書類一式を、「事前相談の時期」までのできるだけ早い時期までに取り揃え、(3) ①の連絡先まで提出してください。

※「本学所定の様式」等は、高知大学受験生サイト (<https://nyusi.kochi-u.jp/daigakuin/hairyo>) より、ダウンロード、および印刷をしてご使用ください。

（重複した障害や上記に明確にあてはまらない障害のある方は、障害等の状況を伝えやすい申請書様式を利用してください。）

提出書類一式は、ご自身にてコピーを取ることをお勧めします。

③ 「受験上の配慮・修学上の支援に関する申請書」への文書による回答

「受験上の配慮・修学上の支援に関する申請書」をご提出いただくことにより、本学での対応について具体的な検討を開始します。進路選択の参考になるよう、出願時までに配慮・支援の内容を検討し、入試課から文書によって回答を発送します。内容によっては、出願時までに回答できない場合や、必ずしも希望内容の全てに対応できない場合もありますので、ご了承ください。

④ 必要に応じて個別面談

必要に応じて、本学において志願者又はその立場を代弁できる関係者等と直接面談を行います。

⑤ その他

「相談の期限」((1) 事前相談の時期 参照)以降に、受験上の配慮を要する理由が生じた場合は、期限以降でも(3)①の連絡先へご相談ください。また、受験後に修学上の支援について相談したいなどの場合には、(3)②に記載のインクルージョン支援推進室までご相談ください。修学上の支援が必要かどうかの意思確認を行い、必要であればその内容を一緒に考えますので、できるだけ早く連絡することを推奨します。

(3) 連絡先

① 高知大学総務部物部総務課学務室（大学院入試担当）

〒783-8502 高知県南国市物部乙 200

TEL : 088-864-5217、FAX : 088-864-5134、E-mail : km13@kochi-u.ac.jp

② インクルージョン支援推進室に関する情報ならびに本学の障害者支援について

高知大学学び創造センター学生支援部門 インクルージョン支援推進室

〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目 5 番 1 号

TEL : 088-888-8037

E-mail : shugakushien@kochi-u.ac.jp

URL : https://www.kochi-u.ac.jp/facilities/gakusei-shien/preuniversity_students/resources.html

(参考)

※ 受験上の配慮の例

- ・ 自家用車での入構、駐車場の使用
- ・ 別室受験
- ・ 試験室をトイレ又は障害者用トイレの近くに設定
- ・ 座席を最前列、最後列、出入り口付近に設定
- ・ 介助者の試験室付近までの同伴、介助者控室の準備
- ・ 試験時間の延長
- ・ 車椅子、松葉杖の使用
- ・ 車椅子用机の準備
- ・ 補聴器の使用
- ・ 注意事項等の文書による伝達
- ・ 拡大鏡の使用
- ・ 問題冊子、解答用紙の拡大

※ 修学上の支援の例（全ての支援を確約するものではありません）

（これまでに高知大学として行った支援の例）

- ・ 欠席時の代替課題
- ・ 授業内支援（IC レコーダー使用・指示内容視覚化・資料配付・途中退室許可）
- ・ 教室環境（換気、教室変更）
- ・ 移動支援（別移動手段）
- ・ 試験の別室受験・支援機器利用許可
- ・ スケジュール管理サポート

- ・段差にスロープ設置
- ・教室に近い場所に送迎車の駐車スペース確保
(想定される支援の例)
- ・書類提出における介助者代筆許可
- ・聴覚障害等のある学生へのノートテイクなどの情報保障
- ・視覚障害のある学生への電子ファイルや点字・拡大資料提供
- ・リスニングが難しい学生についての他の形態の授業代替
- ・教育実習、病棟実習等の実習授業における実習施設の事前見学
- ・授業、講習、行事等での休憩の許可、休憩時間の延長許可

2 奨学金

日本学生支援機構奨学生として選考のうえ、「大学院第一種奨学金」、大学院修士課程段階における「授業料後払い制度」、「大学院第二種奨学金」として貸与される奨学金があります。(留学生は除きます。)

＜問い合わせ先＞高知大学学務部学生支援課経済支援係

TEL : 088-844-8565

3 個人情報

「個人情報の保護に関する法律」に基づき、本学入学者選抜に用いた個人情報については、入学手続、入学者選抜・修学等に係る調査・研究等及び修学に係る用途にのみ使用し、本人の同意を得た場合を除き、他の目的に利用、または提供することはありません。

4 問い合わせ

募集要項に関して不明な点は、物部総務課学務室（大学院入試担当）に照会してください。

＜問い合わせ先＞ 高知大学総務部物部総務課学務室（大学院入試担当）

TEL : 088-864-5217、E-mail : km13@kochi-u.ac.jp

〒783-8502 高知県南国市物部乙 200

高知大学ホームページ

下記アドレスよりインターネットを利用して高知大学ホームページにアクセスすることができます。

入試関係以外にも及び本学の様々な情報が掲載されていますので、是非ご覧ください。

<https://www.kochi-u.ac.jp/>

総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻（コース・領域）の概要

(2025 年 6 月現在)

各コースの概要及び担当教員情報は、2025 年 5 月時点のものです。出願に際しては、あらかじめ志望する教育研究分野の教員に照会のうえ、出願をしてください。

本専攻は、「農林資源環境科学コース」、「農芸化学コース」、「海洋資源科学コース」の 3 コースからなり、それぞれのコースは以下のような教育研究領域があります。

1 農林資源環境科学コース

農林資源環境科学コースは、暖地農学、森林科学、自然環境学、生産環境管理学の 4 つの学問領域で構成されており、農林資源の安定的確保、開発・獲得、高度有効利用、生産環境管理、自然環境の保全・修復などのテーマに取り組んでいます。

本コースでは、各専門領域の高度な知識・技術を基盤としながら、海洋環境・資源に関する知見の応用による課題解決や、AI・IoT などデータサイエンスを組み入れたスマート農業など新たな挑戦を通じて、次世代に貢献できる人材の育成を目指します。

(1) 暖地農学領域

農作物や家畜の生産技術、遺伝的改良、IT 技術導入など最先端の実践的研究で、地域および世界の農業をリードします。

教育研究分野	研究指導が可能なテーマ・内容	担当教員名
農業データ解析学	果菜類等の収量予測、病虫害および作物成長に関わる環境の要因分析手法の研究開発、営農支援システムの研究開発	岩尾 忠重
園芸育種学	果樹・花きを対象とした遺伝育種学的研究	中野 道治
作物環境調節学	「栽培環境と作物生育との関係」について明らかにするための各種実験や解析、環境調節技術の開発	野村 浩一
農山村資源利用学	自然資源の利用と分配をめぐる社会関係や制度、在来知とその変容、農林業の社会史・地域誌	増田 和也
動物生産学	希少和牛品種をモデルとした家畜の繁殖、育種、栄養、生産物、飼養管理、スマート技術に関する研究	松川 和嗣
施設生産システム学	施設園芸・植物工場の環境負荷軽減、省エネ生産システム、自然エネルギー利用に関する研究	宮内 樹代史
作物学	イネにおける環境ストレス耐性、アフリカ天水稲作、熱帯有用作物	宮崎 彰

(2) 自然環境学領域

化学や生物学、環境学などを駆使して、産業と自然の持続可能な関係に資する新たな知見や技術を追求めます。

教育研究分野	研究指導が可能なテーマ・内容	担当教員名
行動生態学	植物ダニ類を材料とする生態学	伊藤 桂
化学生態学	生物間相互作用を制御する化学物質や遺伝子の研究	手林 慎一
農業気象学	気象、農業気象、局地気象、防災気象、作物気象、施設内微気象、地球温暖化、IoP (Internet of Plants)	森 牧人

(3) 森林科学領域

木材資源は可能性に満ちた生分解材料であり、森林は地球環境の基盤です。その未来を科学の視点で探ります。

教育研究分野	研究指導が可能なテーマ・内容	担当教員名
林産学	紙パルプ、機能紙、セルロース材料およびバイオマスリサイクルに関する研究	市浦 英明
林業工学	林道、伐出システム、林業用架線、木質バイオマスの収穫利用、等を扱う林業工学および森林利用学	鈴木 保志

(4) 生産環境管理学領域

農業施設や水利施設など農業インフラの整備・管理について、農学と工学の融合による最新技術を創出します。

教育研究分野	研究指導が可能なテーマ・内容	担当教員名
水環境工学	水環境の微生物調査、下水からの感染症把握、微生物検出技術の開発、医薬品の生態毒性に関する研究	井原 賢
食料生産プロセス学	光センシング、AI 推論、品質管理	河野 俊夫
流域水工学	農業水利用施設のメンテナンスと長寿命化、地域活性、農福連携、沿岸環境の生態系保全・修復	佐藤 周之

2 農芸化学コース

農芸化学コースは、生物環境化学、動植物健康化学、微生物化学の3領域を内包しており、動物・植物・微生物の生命現象、海洋生物を含む様々な生物が生産する物質、安全な食料生産と健康増進、地域・地球環境の保全と修復、生物生態系等にかかる事象など多彩なテーマに取り組んでいます。

新たな修士課程のカリキュラムにおいては、今まで以上に「化学」を重視。化学的視点から生物生産を幅広く探究できる人材の育成を目指し、実験科目と演習科目の強化を図っています。

教育研究分野	研究内容	担当教員名
生物材料化学	環境課題解決型メディシナルバイオプラスチックの創製； 公衆衛生×海洋保全に資するマテリアルDX	芦内 誠

植物栄養学	植物のミネラル吸収・分配に関わる分子メカニズム	上野 大勢
食品機能解析学	食品・農産物・薬用植物の生理活性物質の単離・同定とその作用機序の解明	柏木 丈弘
微生物遺伝子工学	アミノ酸および含硫化合物の代謝に関わる酵素の遺伝子工学的手法による機能解析	加藤 伸一郎
土壌環境学	マイクロプラスチックの土壌中での存在形態と荷電特性に与える影響	康 峪梅
植物感染病学	植物免疫システム、および植物病の発病機構の分子生物学・生化学解析	木場 章範
食品化学	食品の栄養機能、感覚・嗜好機能、生体調節機能と食品成分の関連に関する研究	島村 智子
土壌科学	高知県内外の農地土壌の生成・肥沃度論的研究、東南アジア諸国の土地利用変遷に関する土壌学研究	田中 壮太
植物微生物制御システム学	データサイエンスと分子生物学・生化学的解析による植物病原細菌の病原力制御機構の研究	都筑 正行
応用微生物学	微生物酵素の探索と機能解析、産業用酵素の開発	村松 久司
植物生育環境学	耕地生態系における肥料元素の動態の解明と適正化に関する研究	森塚 直樹
蛋白質科学	機能未知蛋白質や DNA 修復/組換え関連蛋白質などの構造機能解析	若松 泰介

3 海洋資源科学コース

海洋資源科学コースには、海洋生物生産学、海底資源環境学、海洋生命科学の 3 つの専攻があります。それぞれの分野で最先端の専門的知識と技術を修得すると同時に、農学分野（水産資源）と理学分野（海底鉱物資源・微生物生命資源）に関係する海洋資源について総合的に学ぶことで、地域のニーズから地球規模の問題まで俯瞰的に分析・解決できる能力を養います。

眼前に広がる広大な太平洋や、海洋コア総合研究センターをはじめとする高度な研究設備など、環境の優位性を最大限に活かし、持続的社會への貢献を目指します。

(1) 海洋生物生産学領域

清流が流れ込む豊かな里海・土佐湾や、東南アジアから日本までつながる黒潮海域など、恵まれたフィールドを活かして、水産資源や海洋生物資源の持続的かつ高度な生産・利用について先端研究や産官学連携活動を行っています。

教育研究分野	研究指導が可能なテーマ・内容	担当教員名
水圏生物工学	水圏の魚類、無脊椎動物特有の物質の機能を活用する。深海魚、イカ、カニなど	足立 亨介

水族環境学	有害・有毒プランクトンの生き様を解明し、プランクトンの秘めたるパワーを引き出し有効利用する。	足立 真佐雄
沿岸環境学	沿岸環境の水生生物の生態・保全とマイクロプラスチック汚染に関する研究	池島 耕
魚病学	魚類感染症に関する研究	今城 雅之
魚類防疫学	魚類養殖で発生する感染症の予防に関する研究	大島 俊一郎
水族生態学	魚類の行動・群集生態や、魚類の生息場所の保全・再生に関わる研究	中村 洋平
魚類栄養生理学	養殖対象魚の体の仕組みを理解し、それを基により良い飼料を開発する研究	深田 陽久
魚類生理学	魚類の成長・成熟に関する生理学的研究、化学物質の魚類影響に関する研究	薙平 裕次
水産利用学	水産物の品質評価、保持、改善並びに有効利用に関する研究	森岡 克司
水圏微生物生態学	水圏における細菌、植物プランクトンあるいはウイルスの生理生態について	山口 晴生

(2) 海底資源環境学領域

次世代の産業発展の鍵といわれる海底資源。太平洋の深海底に眠るマンガン団塊や海底熱水鉱床、メタンハイドレートなどの海底鉱物・エネルギー資源について、成因の解明や環境影響評価、化学的利用法の探求などに取り組んでいます。

教育研究分野	研究指導が可能なテーマ・内容	担当教員名
電気化学	新規無機金属酸化物クラスターの合成および電気化学的酸化還元挙動の解析	上田 忠治
海底資源解析学	深海底地層の形成プロセスと関連する海洋環境の解析手法の開発・改良、地質材料を利用して作られる伝統工芸品（和硯、和紙など）の物質科学	浦本 豪一郎
水圏環境化学	海水溶存成分分析法の開発、海洋環境の遠隔モニタリング手法の開発	岡村 慶
地球生命科学	生物活動と鉱物形成の相互作用の解明、炭酸塩の地球生命科学的の研究	奥村 知世
触媒化学	新規固体触媒の合成およびメタン・バイオマス変換への応用	小河 脩平
地球化学	同位体地球化学を用いた鉱物・エネルギー資源形成や地震・火山活動機構の解明	西尾 嘉朗

海底資源化学	海底熱水活動による化学物質の動態解明、資源開発時の環境計測技術の開発	野口 拓郎
--------	------------------------------------	-------

JAMSTEC 連携講座

実験岩石力学	岩石の物理的性質の評価を踏まえた自然災害（地震・地すべり）の発生過程の理解、歴史自然災害・歴史文化財の地質学的な切り口による評価	谷川 亘
地球掘削科学	海底掘削試料・データを中心とした沈み込み帯変動プロセスの解明や物質科学的アプローチからの地震メカニズム研究	濱田 洋平

※JAMSTEC：国立研究開発法人海洋研究開発機構

(3) 海洋生命科学領域

未利用資源の宝庫である海。日本近海だけでなく、世界の様々な海域や深海に生息する海洋微生物を対象に、その探索や遺伝情報の解析、遺伝資源の有効活用などについて研究を行い、産業や医療、地球環境保全などへの貢献を目指します。

教育研究分野	研究指導が可能なテーマ・内容	担当教員名
微生物化学生態学	微生物間相互作用、天然化合物の生合成・制御に関する研究	ウラノバ ダナ ULANOVA Dana
有機反応化学	生理活性有機化合物の合成法開発やコンピュータシミュレーションを用いた反応メカニズム解析	金野 大助
海洋生物生理・生化学	有藻性サンゴ等の海洋生物のタンパク質や遺伝子の解析による生理反応の解明	久保田 賢
ゲノム情報科学	ゲノム DNA 等の配列解析を主とした生物が持つ遺伝子機能やその関係についての研究	櫻井 哲也
微生物学	微生物による環境浄化や物質生産、細菌の分類など	寺本 真紀
分子薬理学	海藻成分など様々な生理活性物質の薬理作用の分子レベルでの解析と疾患治療に向けた応用研究	難波 卓司
進化生態学	海岸及び淡水域の生物の生態や進化についての研究	三浦 収

なお、各教員のより詳しい研究領域等について知りたい方は、農林海洋科学専攻のホームページ、高知大学ホームページ中の研究者総覧、または researchmap（外部サイト）をご参照ください。

- ・農林海洋科学専攻のホームページ：<https://www.kochi-u.ac.jp/agrimar/japan/daigakuin/index.html>
- ・研究者総覧：<http://www.jimu.kochi-u.ac.jp/~soran/index.html>
- ・researchmap（外部サイト）：<https://researchmap.jp/researchers>

修了要件及び学位

- (1) 本課程の修了の要件は、大学院に原則として2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格することです。
- (2) 本課程修了により、修士（農学、または海洋科学）の学位が授与されます。

社会人に対する授業時間等の特例

授業担当教員と受講する社会人学生の勤務状況や研究・教育の内容によっては、十分な配慮のもとで、授業時間をその他の時間帯（夏季・冬季休業期間等）に設定することがあります。

長期履修学生制度について

本専攻では、職業を有している等の事情で履修可能な授業単位数や研究指導を受ける時間が制約され、標準修業年限の2年では十分な研究時間が確保できない、また、2年を超えてしまつては授業料が余分にかかり経済的に負担になるという方のために、標準修業年限の2年を超え、2年6カ月～4年間（学期の区分に従い6カ月単位）での計画的な履修を可能とした長期履修学生制度を実施しています。

この制度により授業料は、標準修業年限の2年間で支払うべき総額を、計画的な履修を認められた期間内で均等に分割して支払うこととなります。

また、この制度は入学後の事情の急変（就職、転勤等）にも対応し、事情によっては長期履修期間の変更（短縮、再延長）を認められることもあります。

この制度の適用を希望する場合には、入学手続書類とともに送付される申請書類により定められた期限までに申し込んでください。

教育職員免許状

本専攻で取得できる免許状の種類は次のとおりです。

- (1) 中学校教諭一種免許状[理科]を有し、所定の単位を修得した者は、次の免許状を取得することができます。

中学校教諭専修免許状

理 科

- (2) 高等学校教諭一種免許状[理科、農業又は水産のいずれかの教科]を有し、所定の単位を修得した者は、次の免許状を取得することができます。

高等学校教諭専修免許状

理 科、 農 業、 水 産

教員免許取得を目的とする科目等履修生に対する特別措置について

大学院で学びながら、一種免許状の取得が可能です。

【科目等履修生として免許取得に必要な学部の授業を履修できます。諸費用（検定料・入学料・授業料）は必要ありません。】

総合人間自然科学研究科（修士課程・専門職学位課程）では、学部在学時等に修得単位不足で教員免許が取得できなかった者や、学部在学時には免許取得を希望していなかったが大学院に入学し新たに教員免許を取得しようとする者が、学部の科目等履修生として入学し、大学院の教育課程と並行して学部の授業（教員免許取得に必要な科目に限る）を履修することを可能としています。履修に要する費用（検定料・入学料・授業料）は徴収しないこととなっています。（ただし、教材費等は別途必要）

また、大学院における学修に必要な単位を修得することによって、大学院修了時には専修免許状を取得することができます。（スポーツ・芸術文化共創専攻は除く。）なお、2年間で大学院の教育課程の修了及び一種免許状取得のための必要単位修得が困難であると考えられる場合は、長期履修学生制度を活用することも可能です。（長期履修学生制度については、16ページの「長期履修学生制度について」をご覧ください。）

※授業は、学部の通常授業及び集中講義の科目を受講することになります。

夜間開講等の特別な対応は、予定しておりません。

【取得できる免許】

原則として、入学（所属）する専攻の基礎学部において取得可能な免許（教科）に限る。

所属専攻	基礎学部	取得できる免許状
人文社会科学専攻	人文社会科学部	中学校教諭（国語・社会・英語）
		高等学校教諭（国語・地理歴史・公民・商業・英語）
理工学専攻	理工学部	中学校教諭（数学・理科）
		高等学校教諭（数学・理科・情報）
看護学専攻	医学部	養護教諭
農林海洋科学専攻	農林海洋科学部	中学校教諭（理科）
		高等学校教諭（理科・農業・水産）
スポーツ・芸術文化共創専攻		中学校教諭（音楽・美術・保健体育）
		高等学校教諭（音楽・美術・保健体育）
教職実践高度化専攻		幼稚園教諭
		小学校教諭
		中学校教諭（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語）
		高等学校教諭（国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・保健体育・家庭・情報・英語）

※取得できるのは、原則として、1つの免許状に限る。ただし、同一教科であれば、中学校教諭と高等学校教諭の2つを取得することは可能。

（例：中学校（国語）と高校（国語）、中学校（社会）と高校（地理歴史））

【申請手続き】

『入学者の手引』送付時に、「教員免許取得を目的とする科目等履修生に対する特例措置」についての詳細案内を同封します。申請期限・提出書類等をご確認の上、手続きを行ってください。

『入学者の手引』の送付時期については、6ページの2 入学手続等（1）手続期間を参照してください。

2025年度開講科目一覧(参考)

総合人間自然科学研究科 農林海洋資源科学科(修士課程)

科目区分	授業科目の名称	単位数		備考	科目区分	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
専攻共通科目	農林海洋科学総論	2			コース専門科目	動物生産学演習Ⅰ		2	
	海洋・陸域の環境と資源の科学	1				動物生産学演習Ⅱ		2	
	実践里海再生学特論	1				動物生産学演習Ⅲ		2	
	農林海洋科学特別研究Ⅰ	2				動物生産学演習Ⅳ		2	
	農林海洋科学特別研究Ⅱ	2				施設生産システム学演習Ⅰ		2	
	農林海洋科学特別研究Ⅲ	2				施設生産システム学演習Ⅱ		2	
	農林海洋科学特別研究Ⅳ	2				施設生産システム学演習Ⅲ		2	
	Internet of Plantsセミナー		2			施設生産システム学演習Ⅳ		2	
	太陽光利用型植物工場		2			作物学演習Ⅰ		2	
科共研 目通 研究 科	海外フィールドサイエンス特別実習Ⅰ		2			作物学演習Ⅱ		2	
	海外フィールドサイエンス特別実習Ⅱ		2			作物学演習Ⅲ		2	
コース専門科目	農林資源環境科学コース	講義科目群	農林資源環境科学特論Ⅰ	2		作物学演習Ⅳ		2	
			農林資源環境科学特論Ⅱ	2		落葉果樹園芸学演習Ⅰ		2	
			園芸育種学特論		2	落葉果樹園芸学演習Ⅱ		2	
			蔬菜園芸学特論		2	落葉果樹園芸学演習Ⅲ		2	
			農山村資源利用特論		2	落葉果樹園芸学演習Ⅳ		2	
			動物生産学特論		2	農業経営学演習Ⅰ		2	
			施設生産システム学特論		2	農業経営学演習Ⅱ		2	
			作物学特論		2	農業経営学演習Ⅲ		2	
			落葉果樹園芸学特論		2	農業経営学演習Ⅳ		2	
			園芸管理学特論		2	園芸管理学演習Ⅰ		2	
			農業経営学特論		2	園芸管理学演習Ⅱ		2	
			行動生態学特論		2	園芸管理学演習Ⅲ		2	
			生物多様性管理学特論		2	園芸管理学演習Ⅳ		2	
			化学生態学特論		2	行動生態学演習Ⅰ		2	
			農業気象学特論		2	行動生態学演習Ⅱ		2	
			植物資源機能科学特論		2	行動生態学演習Ⅲ		2	
			林産学特論		2	行動生態学演習Ⅳ		2	
			熱帯樹木生理生態学特論		2	生物多様性管理学演習Ⅰ		2	
			林業工学特論		2	生物多様性管理学演習Ⅱ		2	
			地域林業特論		2	生物多様性管理学演習Ⅲ		2	
			森林計画学特論		2	生物多様性管理学演習Ⅳ		2	
			食料生産プロセス学特論		2	化学生態学演習Ⅰ		2	
			水環境工学特論		2	化学生態学演習Ⅱ		2	
			水資源工学特論		2	化学生態学演習Ⅲ		2	
			流域工学特論		2	化学生態学演習Ⅳ		2	
			地理情報科学特論		2	農業気象学演習Ⅰ		2	
			地域農業経営学特論		2	農業気象学演習Ⅱ		2	
			野生動物管理学特論		2	農業気象学演習Ⅲ		2	
			地域気候学特論		2	農業気象学演習Ⅳ		2	
			農業データ解析学特論		2	植物資源機能科学演習Ⅰ		2	
			作物環境調節学特論		2	植物資源機能科学演習Ⅱ		2	
		演習科目群	園芸育種学演習Ⅰ		2	植物資源機能科学演習Ⅲ		2	
			園芸育種学演習Ⅱ		2	植物資源機能科学演習Ⅳ		2	
			園芸育種学演習Ⅲ		2	林産学演習Ⅰ		2	
			園芸育種学演習Ⅳ		2	林産学演習Ⅱ		2	
			蔬菜園芸学演習Ⅰ		2	林産学演習Ⅲ		2	
			蔬菜園芸学演習Ⅱ		2	林産学演習Ⅳ		2	
			蔬菜園芸学演習Ⅲ		2	熱帯樹木生理生態学演習Ⅰ		2	
			蔬菜園芸学演習Ⅳ		2	熱帯樹木生理生態学演習Ⅱ		2	
			農山村資源利用演習Ⅰ		2	熱帯樹木生理生態学演習Ⅲ		2	
			農山村資源利用演習Ⅱ		2				
			農山村資源利用演習Ⅲ		2				
			農山村資源利用演習Ⅳ		2				

科目 区分	授業科目の名称	単位数		備 考
		必修	選択	
コース 専門科目	農芸化学コース 演習科目群	微生物分子遺伝学演習Ⅳ	2	
		微生物遺伝子工学演習Ⅰ	2	
		微生物遺伝子工学演習Ⅱ	2	
		微生物遺伝子工学演習Ⅲ	2	
		微生物遺伝子工学演習Ⅳ	2	
	実験科目群	植物生育環境学実験Ⅰ	2	
		植物生育環境学実験Ⅱ	2	
		植物生育環境学実験Ⅲ	2	
		植物生育環境学実験Ⅳ	2	
		植物栄養学実験Ⅰ	2	
		植物栄養学実験Ⅱ	2	
		植物栄養学実験Ⅲ	2	
		植物栄養学実験Ⅳ	2	
		土壌環境学実験Ⅰ	2	
		土壌環境学実験Ⅱ	2	
		土壌環境学実験Ⅲ	2	
		土壌環境学実験Ⅳ	2	
		土壌科学実験Ⅰ	2	
		土壌科学実験Ⅱ	2	
		土壌科学実験Ⅲ	2	
		土壌科学実験Ⅳ	2	
		植物微生物相互作用学実験Ⅰ	2	
		植物微生物相互作用学実験Ⅱ	2	
		植物微生物相互作用学実験Ⅲ	2	
		植物微生物相互作用学実験Ⅳ	2	
		植物感染病学実験Ⅰ	2	
		植物感染病学実験Ⅱ	2	
		植物感染病学実験Ⅲ	2	
		植物感染病学実験Ⅳ	2	
		動物生殖工学実験Ⅰ	2	
		動物生殖工学実験Ⅱ	2	
		動物生殖工学実験Ⅲ	2	
		動物生殖工学実験Ⅳ	2	
		生物材料化学実験Ⅰ	2	
		生物材料化学実験Ⅱ	2	
		生物材料化学実験Ⅲ	2	
		生物材料化学実験Ⅳ	2	
		蛋白質科学実験Ⅰ	2	
		蛋白質科学実験Ⅱ	2	
		蛋白質科学実験Ⅲ	2	
		蛋白質科学実験Ⅳ	2	
		食品機能解析学実験Ⅰ	2	
		食品機能解析学実験Ⅱ	2	
		食品機能解析学実験Ⅲ	2	
		食品機能解析学実験Ⅳ	2	
		食品化学実験Ⅰ	2	
		食品化学実験Ⅱ	2	
		食品化学実験Ⅲ	2	
		食品化学実験Ⅳ	2	
		応用微生物学実験Ⅰ	2	
		応用微生物学実験Ⅱ	2	
コース 専門科目	農芸化学コース 実験科目群	応用微生物学実験Ⅲ	2	
		応用微生物学実験Ⅳ	2	
		微生物分子遺伝学実験Ⅰ	2	
		微生物分子遺伝学実験Ⅱ	2	
		微生物分子遺伝学実験Ⅲ	2	
		微生物分子遺伝学実験Ⅳ	2	
		微生物遺伝子工学実験Ⅰ	2	
		微生物遺伝子工学実験Ⅱ	2	
		微生物遺伝子工学実験Ⅲ	2	
		微生物遺伝子工学実験Ⅳ	2	
	海洋資源科学コース 講義科目群	持続可能な水産生物資源の生産と活用	2	4単位 選択必修
		海底資源学序論	2	
		海洋生命科学序論	2	
		水族環境学特論	2	
		沿岸環境学特論	2	
		魚類防疫学特論	2	
		水族遺伝・育種学特論	2	
		水産利用学特論	2	
		水圏生物学特論	2	
		水族生態学特論	2	
		魚類栄養生理学特論	2	
		水圏微生物生態学特論	2	
		魚病学特論	2	
		魚類生理学特論	2	
		電気化学特論	2	
		水圏環境化学特論	2	
		同位体地球科学特論	2	
		海洋物理学特論	2	
		地球化学特論	2	
		海底資源化学特論	2	
		岩石磁気学特論	2	
		触媒プロセス化学特論	2	
		海底資源解析学特論	2	
		地球生命科学特論	2	
		地球微生物学特論	2	
		海底物理探査学特論	2	
		海底地質構造学特論	2	
		実験岩石物性学特論	2	
		海底資源地球科学特論	2	
		資源応用学特論	2	
		海洋生物生理・生化学特論	2	
		海洋ウイルス学特論	2	
		有機反応化学特論	2	
		ゲノム情報科学特論	2	
		微生物学特論	2	
		分子薬理学特論	2	
		進化生態学特論	2	
		分析化学特論	2	
		有機構造解析学特論	2	
		分子合成学特論	2	

科目 区分	授業科目の名称	単位数		備 考
		必修	選択	
コース 専門科目	海洋資源科学コース 演習科目群	水族環境学演習Ⅰ	2	
		水族環境学演習Ⅱ	2	
		水族環境学演習Ⅲ	2	
		水族環境学演習Ⅳ	2	
		沿岸環境学演習Ⅰ	2	
		沿岸環境学演習Ⅱ	2	
		沿岸環境学演習Ⅲ	2	
		沿岸環境学演習Ⅳ	2	
		魚類防疫学演習Ⅰ	2	
		魚類防疫学演習Ⅱ	2	
		魚類防疫学演習Ⅲ	2	
		魚類防疫学演習Ⅳ	2	
		水族遺伝・育種学演習Ⅰ	2	
		水族遺伝・育種学演習Ⅱ	2	
		水族遺伝・育種学演習Ⅲ	2	
		水族遺伝・育種学演習Ⅳ	2	
		水産利用学演習Ⅰ	2	
		水産利用学演習Ⅱ	2	
		水産利用学演習Ⅲ	2	
		水産利用学演習Ⅳ	2	
		水圏生物工学演習Ⅰ	2	
		水圏生物工学演習Ⅱ	2	
		水圏生物工学演習Ⅲ	2	
		水圏生物工学演習Ⅳ	2	
		水族生態学演習Ⅰ	2	
		水族生態学演習Ⅱ	2	
		水族生態学演習Ⅲ	2	
		水族生態学演習Ⅳ	2	
		魚類栄養生理学演習Ⅰ	2	
		魚類栄養生理学演習Ⅱ	2	
		魚類栄養生理学演習Ⅲ	2	
		魚類栄養生理学演習Ⅳ	2	
		水圏微生物生態学演習Ⅰ	2	
		水圏微生物生態学演習Ⅱ	2	
		水圏微生物生態学演習Ⅲ	2	
		水圏微生物生態学演習Ⅳ	2	
		魚病学演習Ⅰ	2	
		魚病学演習Ⅱ	2	
		魚病学演習Ⅲ	2	
		魚病学演習Ⅳ	2	
		魚類生理学演習Ⅰ	2	
		魚類生理学演習Ⅱ	2	
		魚類生理学演習Ⅲ	2	
		魚類生理学演習Ⅳ	2	
		電気化学演習Ⅰ	2	
		電気化学演習Ⅱ	2	
		電気化学演習Ⅲ	2	
		電気化学演習Ⅳ	2	
		水圏環境化学演習Ⅰ	2	
		水圏環境化学演習Ⅱ	2	
		水圏環境化学演習Ⅲ	2	
		水圏環境化学演習Ⅳ	2	
コース 専門科目	海洋資源科学コース 演習科目群	同位体地球科学演習Ⅰ	2	
		同位体地球科学演習Ⅱ	2	
		同位体地球科学演習Ⅲ	2	
		同位体地球科学演習Ⅳ	2	
		海洋物理学演習Ⅰ	2	
		海洋物理学演習Ⅱ	2	
		海洋物理学演習Ⅲ	2	
		海洋物理学演習Ⅳ	2	
		地球化学演習Ⅰ	2	
		地球化学演習Ⅱ	2	
		地球化学演習Ⅲ	2	
		地球化学演習Ⅳ	2	
		海底資源化学演習Ⅰ	2	
		海底資源化学演習Ⅱ	2	
		海底資源化学演習Ⅲ	2	
		海底資源化学演習Ⅳ	2	
		岩石磁気学演習Ⅰ	2	
		岩石磁気学演習Ⅱ	2	
		岩石磁気学演習Ⅲ	2	
		岩石磁気学演習Ⅳ	2	
		触媒プロセス化学演習Ⅰ	2	
		触媒プロセス化学演習Ⅱ	2	
		触媒プロセス化学演習Ⅲ	2	
		触媒プロセス化学演習Ⅳ	2	
		海底資源解析学演習Ⅰ	2	
		海底資源解析学演習Ⅱ	2	
		海底資源解析学演習Ⅲ	2	
		海底資源解析学演習Ⅳ	2	
		地球生命科学演習Ⅰ	2	
		地球生命科学演習Ⅱ	2	
		地球生命科学演習Ⅲ	2	
		地球生命科学演習Ⅳ	2	
		海洋生物生理・生化学演習Ⅰ	2	
		海洋生物生理・生化学演習Ⅱ	2	
		海洋生物生理・生化学演習Ⅲ	2	
		海洋生物生理・生化学演習Ⅳ	2	
		海洋ウイルス学演習Ⅰ	2	
		海洋ウイルス学演習Ⅱ	2	
		海洋ウイルス学演習Ⅲ	2	
		海洋ウイルス学演習Ⅳ	2	
		有機反応化学演習Ⅰ	2	
		有機反応化学演習Ⅱ	2	
		有機反応化学演習Ⅲ	2	
		有機反応化学演習Ⅳ	2	
		ゲノム情報科学演習Ⅰ	2	
		ゲノム情報科学演習Ⅱ	2	
		ゲノム情報科学演習Ⅲ	2	
		ゲノム情報科学演習Ⅳ	2	
		微生物学演習Ⅰ	2	
		微生物学演習Ⅱ	2	
		微生物学演習Ⅲ	2	
		微生物学演習Ⅳ	2	

科目 区分		授業科目の名称	単位数		備 考
			必修	選択	
コース 専門科目	海洋資源科学 コース	演習科目群			
		分子薬理学演習Ⅰ		2	
		分子薬理学演習Ⅱ		2	
		分子薬理学演習Ⅲ		2	
		分子薬理学演習Ⅳ		2	
		進化生態学演習Ⅰ		2	
		進化生態学演習Ⅱ		2	
		進化生態学演習Ⅲ		2	
		進化生態学演習Ⅳ		2	
		分析化学演習Ⅰ		2	
		分析化学演習Ⅱ		2	
		分析化学演習Ⅲ		2	
		分析化学演習Ⅳ		2	
		有機構造解析学演習Ⅰ		2	
		有機構造解析学演習Ⅱ		2	
		有機構造解析学演習Ⅲ		2	
		有機構造解析学演習Ⅳ		2	
		分子生成学演習Ⅰ		2	
		分子生成学演習Ⅱ		2	
		分子生成学演習Ⅲ		2	
		分子生成学演習Ⅳ		2	

※1 講義科目群を開放科目とする。

高知大学物部キャンパス交通案内



- JR：高知駅から空港連絡バス（高知駅前観光バスまたはときでん交通）に乗車（約30分）、
「高知龍馬空港」で下車後、徒歩15分。または高知駅からタクシー（約30分）
御免駅からタクシー（約20分）
- 航空機：高知龍馬空港から徒歩15分。またはタクシー



拡大図

物部キャンパス 案内図

(Guidance Map of Monobe Campus)

